

## 『町制施行 みよし』(1970年)



町制施行を記念して作成された三芳で最初の町勢要覧です。町勢要覧とは、町の行政・産業・教育などの情報をコンパクトにまとめた資料です。当時の状況が写真や具体的な数値とともに掲載されています。

## 旧4か村 地名の由来

### かみとめ 上富

『論語 子路篇』の「曰之富、曰既富矣」(曰く、これを富ます。曰く、すでに富めり。)から引用して命名されました。地域全体が埼玉県の旧跡に指定されています。

### きたながい 北永井

南北に長い「長井村」が「永井村」に変わり、南(所沢市南永井)と北(北永井)に分かれたことが由来です。

### ふじくぼ 藤久保

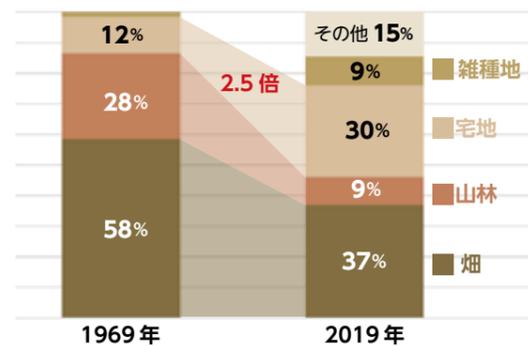
地内の窪地(民間プール施設周辺)に大きな藤の木が生えていたことが由来とされています。

### ちくまさわ 竹間沢

始めに集落ができた場所に竹林の間に水が湧く沢があったことから竹間沢となりました。

## 変わってきた。土地の使われ方

(出典：町勢要覧・統計みよし)



町制施行以前の1969年に三芳町の半分以上を占めていた畑は、約50年後の2019年に37%まで減少しました。一方で、宅地は人口増加に伴い12%から30%へ増加。この50年で大きく都市化が進みました。



特集

# 三芳半世紀の軌跡

【写真】浄水場の配水塔から藤久保交差点方向を望む(上)1970年(下)2020年



## 明

治22(1889)年  
4月1日に上富・北永井・藤久保・竹間沢の四か村が合併して誕生した三芳町の前身、三芳村。平安時代の歌物語『伊勢物語』に登場する「入間郡みよし野の里」から地名をとったこの村は、誕生から81年後の昭和45(1970)年11月3日、新たな躍進を願って町となりました。

今年「三芳」町制施行から50年の節目の年になります。

## 農村から町へ

50年——。半世紀という長い年月で、三芳の街並みも大きく変わってきました。

50年前の三芳は人口1万2千人余りで、地域の8割以上を農地と山林が占める農村でした。現在の人口は約3万8千人で、農地と山林の面積は約5割。田園風景が広がる自然と、都市機能が調和し東京から一番近い町として知られています。

## 近代都市をめざして

「調和と秩序の保たれた明るい健康な近代都市としての町作りに、着実な歩みを続けて参りたい」。50年前に発行された『町

制施行みよし』での町長のあいさつの言葉です。

その言葉の通り、三芳町は公共施設や水道などの公共インフラ整備、道路環境の改善などのまちづくりを住民と協働で続け、近代都市へ歩みを進めてきました。現在の三芳町の姿は、先人の着実な歩みがあってこそということを忘れてはなりません。

町制施行50年を迎える今月号の特集は「三芳半世紀の軌跡」。農村の街並みから現在の三芳町になるまでの先人の歩み、三芳の軌跡を昔の写真と共に振り返り、この町の歴史を探ります。